

Dream Plan

令和4年度 ドリームプラン

ファッションブランドの設立

家政学部服飾美術学科4年 A.H. S.C.

1. ドリームプラン奨学生に応募したきっかけ

私たちは服作りを学ぶために服飾美術学科に入学しました。そして服作りに関する知識を得ていくうちに自分達のファッションブランドを持ちたいねと話そうになりました。そこで今回ドリームプラン奨学生の制度なら、どのような課程をもってアパレルブランドの服が出来上がっていくのかを学ぶことができ、将来の夢に大きく近づけると考えて応募しました。

2. 企画概要

ファッションブランド設立を目標に、OEM と共同で服の製作をしました。デザインや生地の剪定を打ち合わせし、パターンとトワル製作、サンプル縫製を OEM に依頼。修正を重ねサンプル完成までを行いました。

2. 衣服制作上のテーマ

ヨーロッパスタイルが好きなチームのため、「ヨーロッパ」「ヴィンテージ」をキーワードに、18・19世紀のヨーロッパで着用されていたドレススタイルを現代の形に落とし込んだ企画を行いました。また、この時代のドレスのコレクターも多くいますが、古着ゆえ傷ついているものが多いのと、このテーマを主題にしているアパレルブランドは多くないため、新しい道を切り開いていくことができると思い、このテーマに決定しました。

3. 制作課程

- ① OEM（パターンやトワル、サンプルを製造する企業）との打ち合わせ

まずは今回、私たちが考えたデザインを形にしていってくださる OEM 業者の方との打ち合わせです。普段大きなアパレル会社とも取引をしているような業者様ですが、個人にも寄り添ってくださり、予算からどこまでが実現可能か、どんな生地を使えば形になるかなど、詳しいことからシビアな話まで伺いました。特に苦労したのは、予算内で自分達の理想のデザインをいかに実現していくかです。このデザインならこれくらいの見積もりで、このデザインを無くせばあっちのデザインはできて～など。私たちは服作りをしたことがあるものの、業者様にやっていただくことに関しては全く知識がないものでしたから、予算に対する服のデザインや生地の基準がわからず、沢山アドバイスをいただきました。

打ち合わせの前にデザイン案は考えてありましたが、業者様が制作をしていくにあたって詳しくイメージを伝えるための資料を打ち合わせ後に作成しました。（下の画像です）

1 回目の打ち合わせでのデザイン案・各パーツのイメージ画像・サイズ生地の柄（生地感）の詳細資料

新井日夏子

サイズ
身長 : 158cm
バスト : 81cm
袖丈 : 53cm
ウエスト : 64cm
ヒップ : 87cm



デザイン画



様 イメージ

島田千花子

サイズ
身長 : 161cm
バスト : 80.5cm
袖丈 : 53cm
ウエスト : 63cm
ヒップ : 90cm



身頃 上ライン イメージ



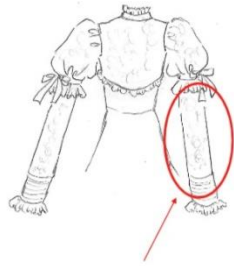
デザイン画



カフス イメージ



ボレロ バックスタイル

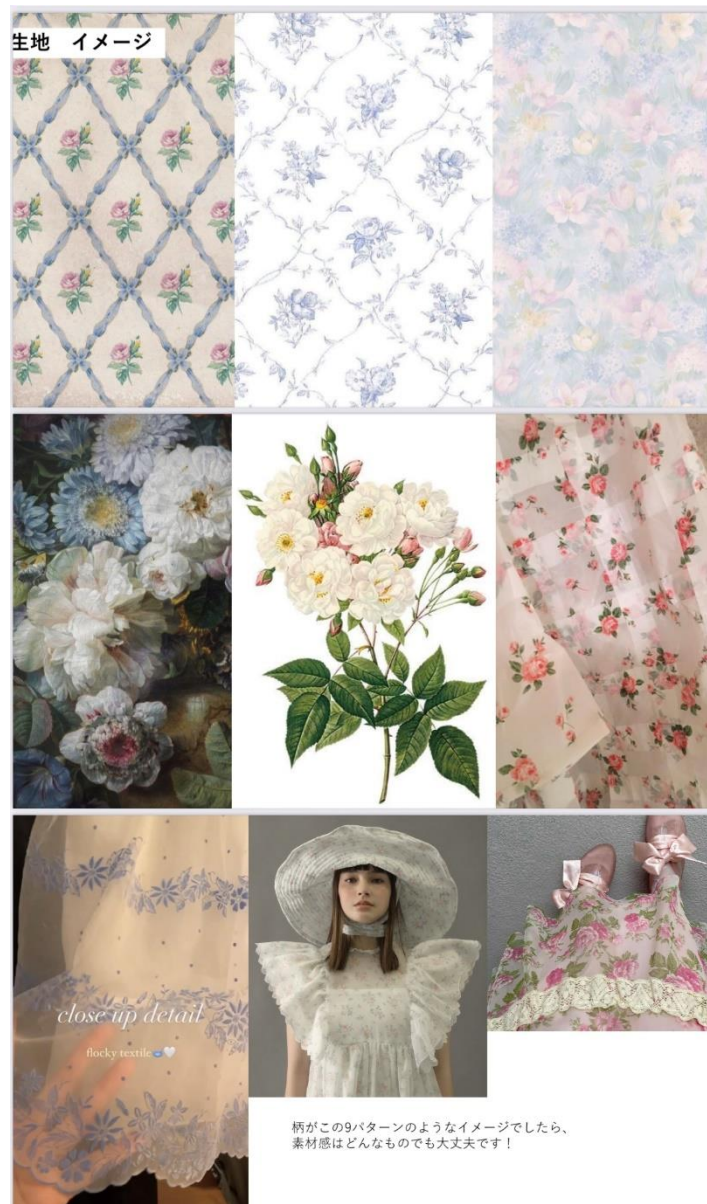


・ボレロ袖部分
伸縮性のある生地でピタッとした感じという内容で打ち合わせを
させていただきましたが、右画像のようなゆとり分、カフス以
外の生地をすべて統一したいと考えています。



ボレロ イメージ





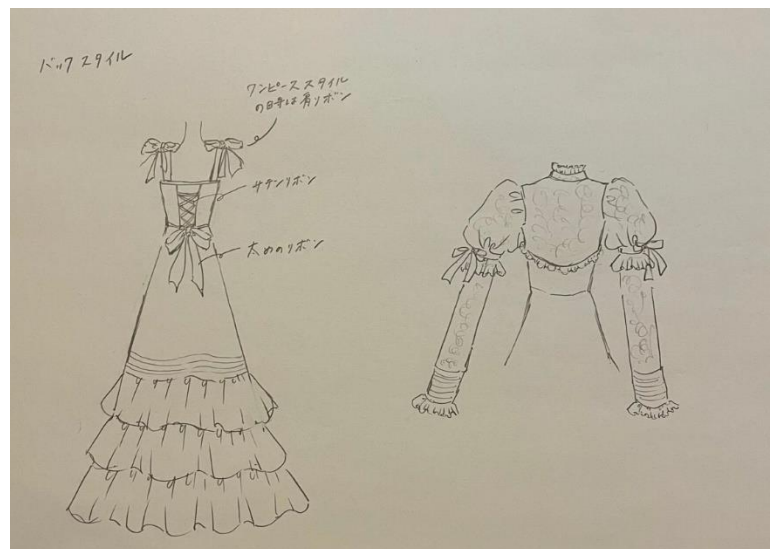
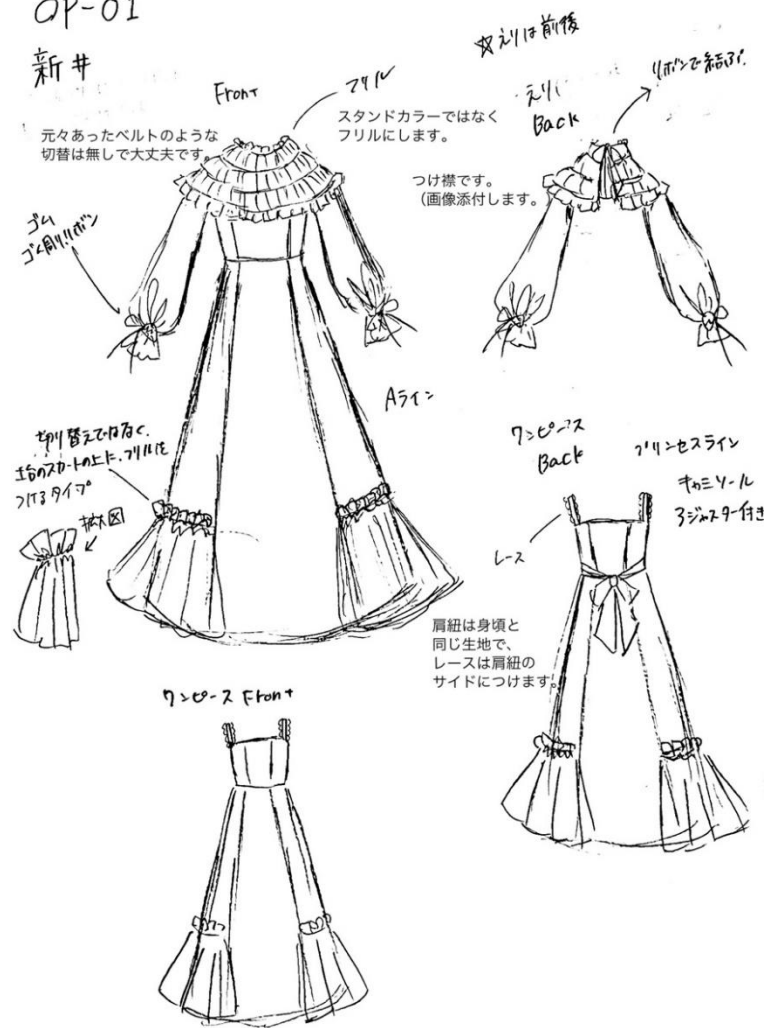
② デザインの構想

初めは上の画像1、2枚目のようなデザインを提出しました。話し合いのうちに、襟の生地によってはワンピースの重みによって生地が伸びてしまうことや袖と裾のフリルが多くて膨張して見えてしまうこと、ビーズ等の装飾は職人さんに頼むと高くつくこと、生地感によってタックの入れやすさが変わること、伸縮性のないレースを腕の部分に使うと、腕が曲がらなくなること、肩紐をリボンで結ぶデザインにする場合は、着用しているときに誤ってリボンが解けてしまわないような工夫が必要なこと等々、デザインをするだけではわからなかったことを沢山吸収しました。また個人で着用する分には無理やり作ってしまいそうなところでも、実際に販売することを想定した服作りには通用しないことを学びました。

最終決定デザイン

OP-01

新井



③ トワルのチェック・修正

デザインが決定してから約1ヶ月後、トワルが完成し、トワルチェック・修正を行いました。ここではシルエットが合っているか、丈は長すぎたり短すぎたりしないか、ウエストの位置は正しいかなど、実際に着用して修正をおこなっていきました。ここで学んだのは、思ったことはちゃんと口に出して相談をしていくこと。ここで決定したら、形を変えることはできないので、納得するまで修正を行うことが忠実に作るために必要であると学びました。

修正したトワル



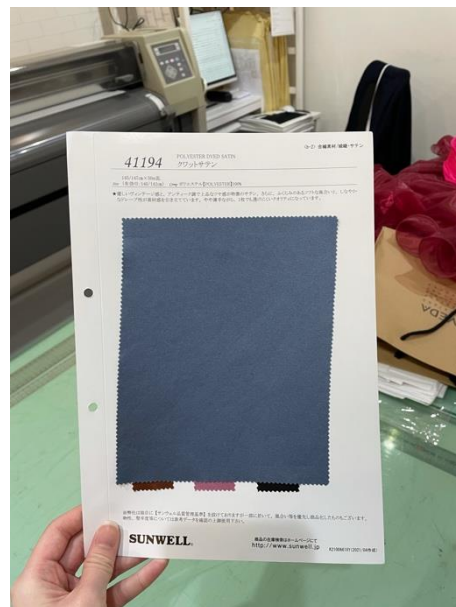
④ 生地の調達

今回は OEM 業者の担当者様が生地イメージをもとに提案してくださった生地と、主に日暮里繊維街で調達した生地（持ち込み生地）を使って制作していただきました。

生地を使った場合のイメージ



使用した生地のサンプル



⑤ 完成

トワルチェックから約1.5ヶ月でサンプルが完成しました。細かいチェックを重ねたおかげで、イメージ通りのものが出来上がりました。トワルで使った布（シーチング）とは、全く別物の布になるので、トワルの時とは違うドレープの出方をしていたり、シルエットが少し異なっていたりと、改めて服作りの難しさを痛感しました。デザインをする時点で布をある程度決めて、この布ならこういう形になるなどと予測を立てていくことが大事であると学びました。



4. 撮影

モデル2名とカメラマン1名に頼んで、服の撮影を行いました。

先述したように「ヨーロッパ」「ヴィンテージ」を軸に衣服の制作を行いましたが、撮影の雰囲気はヴィンテージ感を残しつつもただヨーロッパ風のかわいらしさだけではなく、日本の凛とした空気を取り入れた今までにない新たなイメージに挑戦しました。また、衣服に合わせたアクセサリーの制作も行い、撮影に挑みました。





所感を追加してください。

(ドリームプランで得たこと、感じたこと、今後の抱負等)